

きく組

— 3学期の目標 —

- ◎全体で活動する楽しさが分かり、友達と活動を作り上げていく喜びを知る。
- ◎一年生になる喜びや期待をもてるよう、活動に取り組んでいく。

— 活動内容 —

ふわふわの木を作ろう！

(協同性、言葉による伝え合い、自立心、思考力の芽生え、

豊かな感性と表現、道徳性・規範意識の芽生え)

- ・2学期から取り組んでいた「ふわふわ・ちくちく」の言葉探しから、作品展とも絡めて製作をする。
- ・まずは言葉が書かれた紙の周りを色付けしてみることから始める。言葉からイメージする色を話し合い、何を使って色付けするかを話し合う。
- ・ちくちく→クレヨン ふわふわ→コンテで色付けをする。子どもたちから「ふわふわとちくちくっぽくなったな～」と話す子どももいた。
- ・その後は立体の木にして、廃材を使ってふわふわの木を製作する。モダンテクニックも用いて、さまざまな表現を受容しながら取り組む。
- ・同じ技法に熱中する子、素材の貼り付け方を研究する子、オリジナルでふわふわを表現する子と個性を感じられる作品になり、製作が苦手な子どもも楽しく取り組むことができた。



できたがいっぱい！

(道徳性・規範意識の芽生え、自立心、協同性、思考力の芽生え、

豊かな感性と表現、自然との関わり・生命尊重)

- ・クラスの前で栽培していたブロッコリーが実をつけ、子どもたちも収穫を楽しんでいた。その後は花が咲き、野菜の生長まで観察することができた。
- ・給食では、野菜にチャレンジして完食できる子どもも増えた。それを見た周りの子どもたちも影響を受け、チャレンジしていた。
- ・配膳を自分たちで行い、食事をした。自分で量を決めた給食を完食でき、良い経験となった。
- ・運動あそびで連日取り組んできた大縄。全員で決めた回数を協力し、達成できた。苦手だった子どもが跳ぶことができると「やればできるね！すごいよ！」と声をかける姿があった。



— 3学期の反省 —

- ・言葉に関する活動は2学期から取り組み、繋がりのある保育をすることができた。子どもたちの会話の中にも率先してふわふわ言葉を使う子や、言われて嬉しい気持ちを言葉で相手に伝える姿が見られた。
- ・話し合いを多く取り入れ、活動をしたり、個性あふれる製作に取り組むことができた。また、それぞれの個性や新しいやり方を受容し、認めていく関わりを意識したことで、子どもたち同士が励まし合い、認め合う姿があった。
- ・卒園を控え、就学や卒園に対する不安が感じられた。あまり意識せず日常を楽しめるように関わっていった。

— 年間の反省 —

- ・一年を通して、心の成長を感じることができた。行事を終えるごとに互いを意識し合い、励まし合い、周りのことを考えて遊びを進めていくことができていた。
- ・成長とともに、言葉遣いや周りの環境による子どもの変化があり、その都度課題が見られていった。子どもたちが好きな、絵本などを用いて、活動を継続的に取り入れていくことで、社会の中で適切な言葉の使い方について身に着けることができていた。